

## 日本経営学会第89回大会論題趣旨

### 1. 統一論題「株式会社の本質を問うー21世紀の企業像」

- サブテーマ① 株式会社の原理を問う
- サブテーマ② 巨大株式会社のガバナンスを問う
- サブテーマ③ 現代企業とグローバリゼーション

### 2. 統一論題設定の趣旨

現代社会はさまざまな組織を中心に動いているが、ほとんどすべての面で企業、とりわけ大企業がその中心を占めていると言っても過言ではない。それは、財・サービスの提供主体として、また地域の雇用創出や経済振興・文化的発展の担い手としても活躍している。しかし他方では、巨大多国籍企業による租税回避的な行動は国家の経済的基盤を揺るがす可能性があるし、あるいは東電の原発事故は大企業が消費者を含めた地域、社会、自然に甚大な被害や影響を及ぼす存在であることを見せつけた。良きにつけ悪しきにつけ、現代社会において大企業は極めて重要な存在になっている現実がある。

こうした現代大企業の性格や行動のあり方をめぐっては、コーポレート・ガバナンス論、CSR論あるいは企業倫理などの領域で盛んに論じられてきた。本学会でも統一論題のテーマとして何度も取り上げられた。しかし、これらの問題に対する理解が深まり、議論が収斂して行っているかといえは必ずしもそうではない。それは、現代大企業が基本的に株式会社形態を採っているにも関わらず、「株式会社とは何か」という本質的な問題が十分に議論し尽くされていないからではないかと思われる。現代企業の問題の根幹には、株式会社の構造と機能を如何なるものと把握するかという原理的な問題が依然として横たわっている。例えば、株式会社の所有者は株主で、会社は株主のものだというのが一般的な理解であるが、では株式会社を「所有」するとはどういうことなのか。誰が、何を、どのように所有しているのか。また、株主とは何であり、なぜ有限責任なのか。どうして株式会社は法人なのか。こうした問いに的確に答えようとすれば、株式会社をめぐる法制度とその背後にある考え方、さらに経済的、社会的実態を重ねてみていくことが不可欠であろう。

とりわけガバナンス論など経営学の領域で取り上げられている問題は、決して企業一般を対象として出てくる問題なのではなく、まさに株式会社を対象とする問題であり、より正確に言えば「巨大化した株式会社」を分析の対象とせねば意味をなさない問題である。そしてもう一つ強調しておきたいのは、「巨大化した株式会社」とはすぐれて歴史的な存在である。単にサイズが大きいというだけではなく、歴史的な

変遷、変容を経て成立した存在だということである。

以上のような問題意識に立って、「現代株式会社の本質」とは何かを改めて問おうとするのが今回の統一論題の主旨である。具体的には、株式会社というものを改めてその原理レベルにさかのぼって検証するとともに、それに基づいてガバナンス問題を問い直し、さらにグローバル化の進展の中で株式会社が如何なる状況におかれているのかを明らかにしたいと考える。そうすることによって初めて、ガバナンス問題をはじめとする経営学の重要な諸問題に、新たな切り口が提供されると考える。

### ①株式会社の原理を問う

株式会社の原理とは何であろうか。株式会社はもともと資本集中機構として位置づけられており、資本の出資者としての株主がいる。株主は会社の所有者とされるが、その株主の所有とは何か。そして株主の責任や義務、あるいは会社そのものの法人性の意味などを突きつめて考えると、そう単純ではないことが分かる。しかも株式会社は歴史的発展の中で、その姿を大きく変えてきている。規模の巨大化は言うまでもなく、所有者(株主)は個人から機関へと変わり、ファンドの時代を迎えている。そこで株式会社の法制的、経済的原理とは何か、を根幹から問い直そうというのが本セッションの目的である。

### ②巨大株式会社のガバナンスを問う

コーポレート・ガバナンスとは、基本的には巨大株式会社を対象とする問題である。大規模な株式会社を動かしているのは専門経営者であるが、会社は誰のためにどのように動かされているのか。また度重なる不祥事を受けて、誰が、経営者をどのようにチェックするのか。コンプライアンスが重要課題として注目されている。では経営者とは何であり、株主と経営者の関係は如何なるものか。経営者は株主の代理人にすぎないのか。日本版スチュワードシップ・コードが制定されたが、株主の役割とは何か。本セッションでは、株式会社におけるガバナンス問題を改めて検討する。

### ③現代企業とグローバル化

現代企業は、グローバル経済のまっただ中にあり、市場での激しい競争に直面している。グローバル経済とは国境を越えてモノやカネが自由に移動する経済であるが、とりわけ情報革命、ICT 革命の進展によって、膨大な情報が瞬時に世界を駆け巡る。情報そのものが大きな価値を生み出す情報資本とも呼べるものになっており、それが実物経済にも大きな影響を与えている。ファンド・ビジネスなどはその典

型であり、現代企業はそれを歓迎し、またそれに翻弄されている。現代企業は、投機の対象とも見なされている。本セッションでは、現代企業の現在をグローバリゼーションの視点で見ていく。